

2015 年度 武蔵大学の創造的な教育実践

はじめに

これまでの第Ⅰ部と第Ⅱ部では、授業改善のために実施している狭義のFD活動について報告してきた。この第Ⅲ部では、本学が現在行っている特徴的な教育上の取り組みについて、「ゼミの武蔵」の実践と、グローバル化への取り組みの2つについて、報告する。

本学は、大学開学以来、そしてさらに遡ればその前進である旧制武蔵高等学校の創設以来、「自ら調べ自ら考える力」をもつ人物の育成を教育の基本的な目標のひとつとしてきた。そしてゼミナールは、この目標を実現するための中心となるものである。本学では、全学生が4年間ゼミナールを履修するカリキュラムを導入し、ゼミナールによる教育の一層の活性化や質の向上を図るための取り組みを行っている。そのひとつは、社会人として必要な力を身に着けることを目的として、経済・人文・社会という3つの学部の学生たちが、学部の枠を越えて協力し、提携企業から与えられた課題に取り組む課題解決型の授業―「学部横断型ゼミナール・プロジェクト」―である。

また各学部のゼミナールを活性化させるために、ゼミナールでの学習・研究の成果を発表する場を設けている。経済学部では、各ゼミナールの学生がプレゼンテーションを行い、社会人を含む審査員がこれを評価して優勝ゼミなどを決める「ゼミ大会」を行っている。また人文学部と社会学部では、学生たちがゼミナールでの学習をもとに作成した卒業論文等の成果を発表する「卒業論文報告会」と「シャカリキフェスティバル」を実施している。第Ⅲ部ではまずこれらについて本年度の報告がなされている。

次のグローバル化への取り組みでは、「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム」について報告が行われている。グローバルに活躍できる人材の育成は、旧制武蔵高等学校の創設以来、教育の目的とされてきたものであり、現在、大学が重要な課題としているものでもある。この取り組みは多様なかたちで行われているが、経済学部の学生を対象とするこのプログラムは、日本にいながら、4年間でロンドン大学と武蔵大学の双方の学士号を取得することが可能となるものであり、将来グローバルに活躍することを志す学生にとって魅力的なものといえる。準備段階を経て本年度から実際に運用が開始されたこのプログラムの仕組みや現状などがここでは紹介されている。

(文責：清水 敦)

1. ゼミの武蔵の実践

学部横断型課題解決プロジェクト

経済学部准教授 森永 雄太（運営チームリーダー）

この授業は、2008年度に正規授業となり、今年度で足かけ8年目を迎えました。

2015年度は、前学期、後学期ともに2つのクラスを開講しました。前学期、後学期の学部・学科別の履修者数は次のとおりとなっています。内訳をみると、前学期は（2クラス合計）、経済学部が19名、人文学部が13名、そして社会学部が22名の合計54名、後学期は（2クラス合計）、経済学部が25名、人文学部が18名、そして社会学部が19名の合計62名です（表1）。

昨年度と比較すると、前学期が11名増（2014年度前学期43名）、後学期が7名増（2014年度後学期55名）となりました。

表1 2015年度学部横断型課題解決プロジェクト履修生

セメスター 学科	2015年度前学期 (3年次生)	2015年度後学期 (2年次生、3年次生)
経済	4名	3名(2年次生)
経営	10名	16名(2年次生)
金融	5名	6名(2年次生)
英語英米文化	3名	11名(2年次生)
ヨーロッパ文化	7名	6名(2年次生 5名、 3年次生 1名)
日本・東アジア文化	3名	1名(2年次生)
社会	6名	11名(2年次生)
メディア社会	16名	8名(2年次生)
履修生合計人数	54名	62名(2年次生61名、3年次生1名)

この授業は厳密な定員制度を設けてはいませんが、およその目安としては、1クラス当たり30名（各学部から10名。1クラスあたり2つのチームを結成するので、1チーム当たりの1学部の上限は5名）が目途ですので、前学期、後学期ともに履修生の上限は、各学部が20名、合計60名です。ですから、上限を100%とした場合の、定員充足率は、全学部単位で見ると前学期は90%、後学期は103%となります。いずれにしても、2015年度も合計116名の学生が履修しており、1学年定員（930名）の1割以上の学生が今年度も履修しました。

就職活動の開始時期が後ろ寄りになったにも関わらず、後学期に履修する3年生の数が減少するという傾向は今年度も続きました。今年度後学期に履修した3年生は1名でした。ただし、多様性という観点からはフェーズ1を通じた知識の多様性が保たれています。むしろ階層のないチーム内で全員が主体性をもってプロジェクトに取り組まざるを得ない厳しい環境設計が可能になったともいえるでしょう。

履修生を男女比で見たものが表2です。前学期は男性19名、女性35名（男性比率35%）、後学期は男性19名、女性43名（男性比率31%）と、前学期、後学期ともに女性割合が男性を大幅に上回っています。

表2 2015年度学部横断型課題解決プロジェクト履修生（学年・学科・性別）

		2015年度					
		前学期		後学期			
		3年次生		3年次生		2年次生	
学科	性別	男	女	男	女	男	女
経済		3名	1名	0名	0名	3名	0名
経営		7名	3名	0名	0名	7名	9名
金融		3名	2名	0名	0名	4名	2名
英語英米文化		1名	2名	0名	0名	0名	11名
ヨーロッパ文化		1名	6名	0名	1名	2名	3名
日本・東アジア文化		0名	3名	0名	0名	0名	1名
社会		1名	5名	0名	0名	1名	10名
メディア社会		3名	13名	0名	0名	2名	6名
性別合計人数		19名	35名	0名	1名	19名	42名
履修生合計人数		54名		62名			

この授業は2つの柱から成り立っており、一つが、課題提供企業のCSR報告書の作成、もう一つが社会人基礎力の育成と社会人基礎力の自己評価能力を高めることです。

表3は、後者の社会人基礎力に関するデータになります。通年の平均値で見ると、受講前（事前評価）と受講後（事後評価）の比較で最も伸びた要素は、実行力が首位、次に発信力が、2位（事後一事前がそれぞれ1.6ポイント、1.3ポイントのプラス。ただし、それぞれの要素については10点満点で学生が自己評価している）となっています。一方、伸びたポイントが最も少なかったのは、同じく通年の平均値で見ると、規律性の0.1ポイントでした。

しかし、ポイントの変化で見ると、規律性は最も「伸びなかった」能力とすることができますが、規律性は事前評価の段階で、12項目の中で最も高かったこと（事前評価で7.9ポイント）にも注目しておく必要はあります。

社会人基礎力は、細かくは12の要素に分かれています。大きくは、前に踏み出す力、考え抜く力、そしてチームで働く力の3つのカテゴリーに分かれています。この3つのカテゴリーで見ると、チームで働く力はもともと水準が高いが上昇幅は小さい。一方、前に踏み出す力はもともと水準が低かったが上昇幅が大きいという傾向が見られます。

表3 社会人基礎力の事前・事後自己評価【2015年度履修生】（学生による自己評価）

カテゴリー/要素		事前評価	事後評価	差異（事後 - 事前）
通年⑫要素平均		6.5	7.6	1.1
1. 前に踏み出す力（通年）		6.2	7.6	1.4
①主体性	前学期	6.9	8.2	1.3

	後学期	6.9	8.0	1.1
	通年	6.9	8.1	1.2
②働きかけ力	前学期	5.9	7.2	1.3
	後学期	5.9	7.0	1.1
	通年	5.9	7.1	1.2
③実行力	前学期	5.9	7.8	1.9
	後学期	6.0	7.2	1.2
	通年	5.9	7.5	1.6
2. 考え抜く力 (通年)		5.9	7.0	1.1
④課題発見力	前学期	6.4	7.8	1.4
	後学期	6.4	7.4	1.0
	通年	6.4	7.6	1.2
⑤計画力	前学期	6.0	7.4	1.4
	後学期	5.8	6.7	0.9
	通年	5.9	7.1	1.2
⑥創造力	前学期	5.2	6.3	1.1
	後学期	5.3	6.5	1.2
	通年	5.3	6.4	1.1
3. チームで働く力 (通年)		7.0	8.0	1.0
⑦発信力	前学期	6.4	7.5	1.1
	後学期	6.3	7.7	1.4
	通年	6.3	7.6	1.3
⑧傾聴力	前学期	7.3	8.4	1.1
	後学期	7.3	8.1	0.8
	通年	7.3	8.2	0.9
⑨柔軟性	前学期	7.1	8.5	1.4
	後学期	7.2	7.9	0.7
	通年	7.2	8.2	1.0
⑩状況把握力	前学期	6.5	7.9	1.4
	後学期	6.6	7.5	0.9
	通年	6.5	7.7	1.2
⑪規律性	前学期	7.8	7.9	0.1
	後学期	7.9	8.1	0.2
	通年	7.9	8.0	0.1
⑫ストレスコントロール力	前学期	6.7	8.2	1.5
	後学期	7.0	7.9	0.9
	通年	6.8	8.0	1.2

今年度（2015年度）に課題を提供いただき、授業に協力していただいた企業は、株式会社タカギ、日本ケミファ株式会社、株式会社ニフコ、株式会社野上技研、サトーホールディングス株式会社、株式会社ジーシー、株式会社資生堂、そして東芝三菱電機産業システム株式会社の8社です。

この中で、株式会社資生堂は、多くの人知っている会社と思われるかもしれませんが、そのほかの7社については、初めて名前を聞く会社がほとんどだと思います。しかし、アルバイト先で商品に値札をラベリングしたり、病気で入院した際にラベルを腕に付けたりしたことがある学生は多いでしょう。このようなモノと情報をつなぐ商品を日本で初めて開発したメーカーは、この7社の中の1社です。

ほかにも、自動車はおよそ23,000もの部品から作られますが、その多くに合成樹脂が用いられています。耐久性のある合成樹脂を自動車部品に用いることで自動車全体の軽量化の貢献している企業も今年度の協力企業の中に含まれています。このように、名前自体は有名でなくとも、世の中でしっかりとした役割を果たしている企業と触れ合うことで、学生の社会に対する視野を広げるという狙いも、この授業は担っています。

また2015年度は、新しい試みとして最終報告会終了後に複数のチーム合同で振り返りを行いました。学生たちは学期中、多様な学びを得たと感じていますがその学びがどの程度周囲の人と同じで、どの程度異なるのかについては深く議論してきませんでした。今回他チームの受講生と学びを共有したことで以下の効果が得られたと推察されます。まず、他者に自分の学びを宣言することで、経験からの学びがより具体的な教訓としてより明確に整理されました。類似の経験から異なる教訓を引き出している他者とディスカッションすることで物事の多様性を深いレベルで理解することが可能になったと考えられます。



活発に意見を交わす履修生

ゼミ対抗研究発表大会（経済学部）

経済学部准教授 山崎 秀雄（ゼミ大会運営委員）

〈2015年度「ゼミ大会」振り返り〉

本学ゼミナール連合会が主催する経済学部・ゼミ対抗研究発表大会（通称「ゼミ大会」）は、今や「ゼミの武蔵」を代表するイベントの1つとなりました。2015年12月13日（土）に本年度のゼミ大会が開催され、34チームが7つのブロック（経済A、経済B、経済・金融、金融、経営・会計、経営A、経営B）に分かれ、20分間のプレゼンテーションを通して日頃の研究成果を競い合いました。

各ブロックでは、その専門領域に応じて選出された4名の審査員が、①着眼点・結論のユニークさ、②論理一貫性、③分析・調査の妥当性、④関連する事例を検討しているか、⑤社会に必要または応用できるか、⑥聞き手を意識した発表であるか、の6つの観点から審査を行います。4名の審査員のうち2名は本学教員ですが、他の2名は実務界で活躍されている本学OB・OGです。この点もゼミ大会の特徴の1つといえます。今回も厳正な審査の結果、各ブロックの優勝・準優勝チームが選ばれ、それぞれ賞状・賞金が授与されました。

ゼミ大会は、ともすると大会当日の様子ばかりが注目されがちですが、当日と同等あるいはそれ以上の教育的効果が期待できるのは、大会までのプロセスです。ゼミ大会には、「チームで優勝を勝ち取る」という明確で大きな目標や、学生たちによるゼミ間での競争（場合によっては大会出場を巡るゼミ内での競争も）といった、普段のゼミ活動や講義形式の授業にはない要素があります。これらの存在により、学生たちは大会までの準備プロセスの中で、相互に刺激し合い、自分の能力や個性をより明確に認識し、チームのために自分がどのような貢献ができるかを考えるようになります。つまりゼミ大会は、より高い専門知識の修得に加え、実社会で求められるリーダーシップの涵養という教育的効果も期待できると考えられます。

実際、今年もゼミ大会前には、PCの操作に自信のある学生が発表用のスライドを作り、文章作成に自信のある学生が読み原稿を作り、また、残念ながら大会には出場できない学生が出場する仲間のために発表の練習に付き合っただけで良い点・改善点をフィードバックする、といった光景がキャンパスのあちこちで見られました。

〈今後の課題〉

今後の課題は、大きく3つあると考えています。

第一に、出場チーム（ゼミナール）数をいかにして維持・増加させるかという点です。幸い今年度の出場チーム数は、昨年度に比べわずかながら増加しました。懇親会も含め、やはり出場チームは1つでも多い方が大会は活性化することを今回再認識しました。

第二に、いかにして聴講する学生を増やすかという点です。大会に出場する学生にとって、聴講者は多い方がやる気も緊張感も高まるでしょう。一方、聴講する学生にとっても、仲間や先輩のプレゼンテーションを聴くことはその後の学習意欲を高める良い刺激となるはずです。聴講者の増加にはこうした相乗効果が期待できます。

そして第三に、主催するゼミナール連合会のさらなる体制強化です。経済学部の学生は、ゼミ大会へ「出場」しようという意識は高い一方、ゼミ大会を「運営」しようという意識は相対的に薄いといわざるを得ません。学生が「運営は誰かがやってくれる」「発表の舞台は与えられる」という意識では、ゼミ大会のさらなる活性化は厳しいでしょう。学生が、自分たちはゼミ大会の運営側の当事者でもあるという意識をより強く持ち、ゼミナール連合会の活動にもっとコミットしたいと考えるような仕組みをデザインする必要があると思われます。



ゼミ大会・懇親会の様子

出場チーム一覧(発表順)

ブロック	ゼミ	テーマ
経済 A 8603 教室	後藤 2	日本の屋上緑化の普及のために
	田中 2	循環型社会形成のためのごみ有料化政策の在り方 ～ゴミ袋の有料化がもたらすインパクト～
	広田 2	出生率に関する実証分析
	松川 2	住宅エネルギーマネジメントシステム
	安達 2	Stop the 国内産業空洞化！～Un ドーナツ型「ODI ファンド」の提案～
経済 B 8604 教室	河合 1	介護離職 ～介護離職の現状と解決策～
	田中 1	経済影響を考慮した電源構成の在り方
	二階堂 1	労働者送金と経済発展
	広田 1	アウトレットモールで地方活性化は可能か
	松川 1	RVM ～新しいデポジット～
経済・金融 1101 教室	東郷 2	日本の所得格差
	茶野 2	地方銀行の合併効果/規模の経済性
	大野 2	「石油価格からみる日本企業の現状」～日本企業のあり方～
	二階堂 2	衛生的なトイレが途上国経済に与える影響
金融 8702 教室	安達 1	利子裁定式と日経記事の応用分析 ～米国利上げと為替レートの変動～
	海老原 2	ブラック企業指数と企業価値の関係 ～労働環境の制度～
	神楽岡 2	公的年金の運用の現状と課題 ～年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用はリスクを取り過ぎではないか～
	茶野 1	地方銀行とリバースストレステスト
	徳永 2	企業内福利厚生へのファイナンス的アプローチ
経営・会計 1001 教室	高橋(由)1	カラオケ業界の今後
	杉本 A	IT を利用した次世代ビジネスのあり方 ～ダイレクトマーケティングの未来～
	高橋(徳)2	中小企業の成長性評価と地域金融機関の役割 ～地域経済への貢献と経営の健全性は両立できるのか～
	目時 2	トランザクティブメモリーシステムのデザインが組織のパフォーマンスに与える影
	山崎 1	生き残る文房具業界 ～なぜデジタルの時代にアナログの文房具は売れるのか～

経営 A 8503 教室	杉本 B	日本の中小製造業による広域型連携の構築
	板垣 2	脱原発の日本へ ～原発の理想と現実～
	山崎 2	「観光とパークアンドライド」
	古瀬 2	TSUTAYA の新事業に見る ～店舗型小売販売の未来～
	森永 2	健康経営 ～社会問題解決に向けて～
経営 B 1201 教室	板垣 1	YKK なぜ NO'1 であり続けられるのか
	高橋(徳)1	ソーシャルビジネス存続のための条件とは
	伊藤(誠)1	中小企業変革の新フレームワーク ～輝く町工場に学ぶ製造業転生のススメ～
	森永 1	リーダーシップ育成のためのエクササイズ開発
	目時 1	「公認会計士」の業務はどの程度人工知能に取って代わられるか？

卒業論文報告会（人文学部）

人文学部教授 新納 卓也（人文学部教務委員長）

人文学部ではすべての学科の学生に必修としている卒業論文（英語英米文化学科の英語コミュニケーション・コースの学生は英文エッセイを執筆）の成果を発表する機会として、毎年1月月末に「卒業論文報告会」を開催しています。これは、指導教授が自身の指導した卒業論文・英文エッセイから、論文の完成度や内容の独創性の観点から優れていると判断したものを推薦し、その執筆者が論文の要旨を報告するという、研究成果発表のためのイベントです。主な聴衆は、翌年度に卒業論文・英文エッセイを作成する3年生を中心とした在学生ですが、ご父母、外部の方々にも大学ホームページ、出身高校への案内などで告知をおこない、ご参加いただいています。

今年度は2016年1月29日（金）の13時から8号館の3教室に学科ごとに分かれ、学科教務委員の司会のもと、以下のようなテーマで報告がなされました。報告者は学科ごとに決められた時間のなかで発表し、そのあとには必ず質疑応答の時間が用意されています。

〈英語英米文化学科（英語の題目は英語による報告）〉

ニューヨークにおける東欧ユダヤ人のアメリカ化

International Marriage and Barriers—Looking through Language and Communication Problems

『千と千尋の神隠し』についての考案—温泉から考察する日本文化

Is it possible to produce an ideal image for oneself via SNS?

From Anglo-Celtic Conformity to Multiculturalism—The Transition of Australian Attitudes Toward Immigrants

児童文学翻訳家 石井桃子について

〈ヨーロッパ文化学科〉

武士と騎士—その精神と刀剣観

Vergleich der Bildungs- und Ausbildungssysteme in Japan und Deutschland am Beispiel des Englischunterrichts（ドイツと日本の学校制度、教職課程、英語教育の比較）

ヨーロッパにおけるサッカーと人種差別

ディズニープリンセス—現代に蘇るおとぎ話

異類婚姻譚が愛される理由—『美女と野獣』と『ぼくのエリ 200歳の少女』を比較してカフカの動物文学

ジュール・シェレのポスターから見る広告の本質—色彩と女性像

フランスの日傘

レオナルド・ダ・ヴィンチの機械像—解剖された自然

〈日本・東アジア文化学科〉

芥川龍之介『河童』論—河童の世界から見えるもの

日本の舞台芸能にみる日本人の死生観について—能と歌舞伎の比較

『うたふ』に準じる和歌—古今集和歌の歌謡的側面の考察

日本文化の影響による新中国語—1990年代以降におけるACGに関する日本語由来の中国語の流入

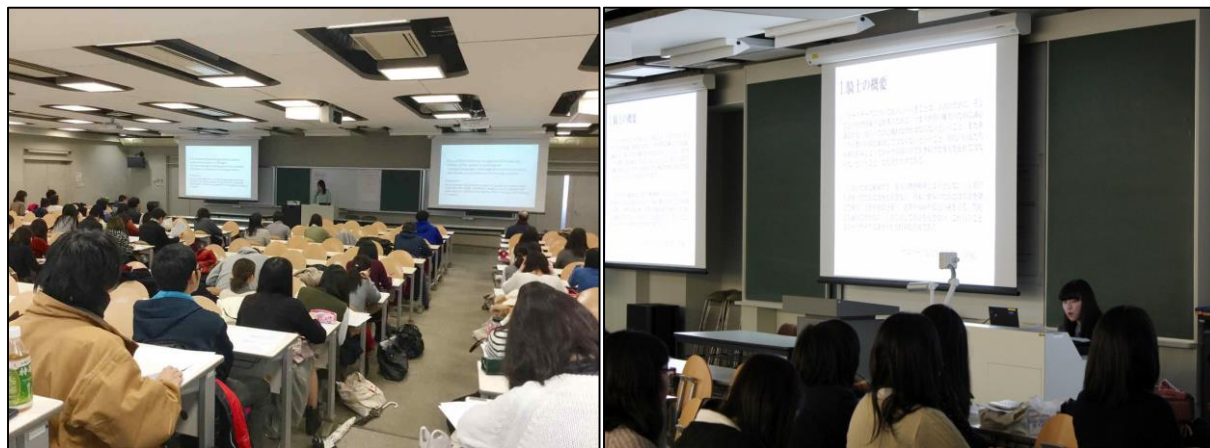
台湾原住民から見る『親日』

報告されたテーマをみると、人文学部の3学科が教育研究対象とする諸地域についての多様な内容が反映されていることがわかります。当学部では、卒業論文・英文エッセイを4年間の「学業の集大成」として位置づけ、必修とすることで、学部のディプロマ・ポリシーが目標としている「自発的な調査能力、データを整理・分析する力、総合する力、文章構成力、口頭による説明能力と現代的ツールを用いた情報伝達能力、意見交換(対話)を多角的に行って自説の客観性を高める力」を実践的に学ぶ機会を与えていますが、配付資料(レジュメ)やパワーポイントなど映像情報機器の利用によって卒業論文の内容を聴衆に伝える卒業論文報告会は、この目標の達成度をはかる良い機会にもなっています。12月初旬の卒業論文・英文エッセイ提出後、卒業前の貴重な時間をさいてこの報告会へ向け準備を進め、工夫を凝らした報告をしてくれた4年生は、3年生からの様々な質問に答えるとともに、ときにはテーマの選び方など今後卒業論文を書くうえでの後輩へのアドバイスや励ましも与えてくれました。通常卒業論文指導は指導教授と執筆者とのあいだの個人指導やゼミナール形式のグループ指導が中心となりますが、卒業論文報告会は、学年を超えた対話が成立する貴重な学びの場となっているのです。

本報告会は、3年生にとっては「卒業論文準備ゼミナール」の授業の一部として位置づけられています。それぞれの報告ごとにキーワードと質問・コメントをメモする用紙を提出するようにしている学科もあり、多くの学生が発表後の質疑応答にも積極的に加わります。自分が卒業論文で書こうと思っている分野や近いテーマの論文報告を聞いて、発表者に具体的な質問をすることもでき、ヒントを得たり、意欲を高めたりする3年生が少なくありません。

今回3学科すべての報告会の様子を部分的に実際に拝見することができましたが、どの学科も報告者は落ち着いて説明し、それを出席者が静聴していました。会の運営のしかたは学科ごとに特色があります。たとえば、質疑応答を学生中心におこなっている学科がある一方で、指導教授が時に応じて論点の評価・解説や質疑応答を補助したりする学科もあり、そのスタイルや工夫は様々です。今後の検討点として、報告する4年生に卒業論文・英文エッセイの豊かな内容を短時間でどのようにまとめ効果的に伝えるかについての事前指導をさらに徹底すること、3年生がより積極的に参加するよう運営上の工夫をはかることなどが考えられます。また、各学科の良い点を相互にうまく取り入れ、全体として卒業論文報告会がより充実したものになるよう改善を図りたいと考えているところです。

なお人文学部では、発表された卒業論文に、指導教授からの推薦があったが報告会には参加できなかった学生の論文要旨も加えてまとめた『卒業論文成果報告書』を翌年度のはじめに発行しています。



卒業論文報告会の様子

シャカリキフェスティバル（社会学部）

社会学部准教授 安藤 丈将（シャカリキフェスティバル担当）

シャカリキフェスティバルは、社会学部の卒業論文・卒業制作の成果を発表するための機会として2009年度から始まり、本年度（2015年度）で第7回となりました。「シャカリキ」という言葉には、「社会学の力」という意味と「がむしゃらに頑張る」という意味が込められています。ゼミナールごとに報告者を選出しますが、その中で競い合うというよりも、多様な成果をお互いに披露しあう形で行なわれており、卒業する4年生を中心とするお祭りでもあります。

本年度のシャカリキフェスティバルは、2016年1月29日（金）に開催されました。設定された部会数は9部会で、卒業論文20点と卒業制作8点の合計28点の発表と質疑応答が行われました（当日、体調不良により1名欠席）。卒業論文は、社会学科・メディア社会学科の各ゼミナールから1点ずつが代表として選ばれています。卒業制作については、卒業制作を選択した学生のいるゼミナールから代表が選出されています。

当日のスケジュール、および開催された部会名、発表タイトルは、以下の通りです。

A会場:卒業論文(1001教室)

13:20～13:30			
13:30 ～	部会 A1	林ゼミ	「婚活」現象の計量社会学的研究
		千田ゼミ	婚活における街コンの位置付け
		中西ゼミ	現代社会における未婚化・晩婚化現象
14:50～15:00 休憩(10分)			
15:00 ～	部会 A2	大屋ゼミ	都市再開発に見る地域融和の可能性
		南田ゼミ	「soundcloud」における音楽受容を通してみるコンテンツの断片化
		内藤ゼミ	若さを求め続ける中高年女性
16:20～16:30 休憩(10分)			
16:30 ～	部会 A3	矢田部ゼミ	「不登校」の生きづらさ
		石森ゼミ	現代における工場景観の受け取られ方
		山下ゼミ	暴力的ゲームが若者に与える影響

B会場:卒業論文(1101教室)

13:20～13:30			
13:30 ～	部会 B1	玉置ゼミ	都市の水辺空間の利用実態に関する社会学的研究
		松井ゼミ	人気温泉地から見る観光まちづくり
		安藤ゼミ	現代社会における農的ライフスタイルの可能性
14:50～15:00 休憩(10分)			
15:00 ～	部会 B2	中橋ゼミ	ひとりカラオケに対する意識
		粉川ゼミ	「応援うちわ」にみるジャニーズファン
		庭山ゼミ	東京都大田区における知的障害者の自立に向けた取り組みと家族が求める支援
16:20～16:30 休憩(10分)			
16:30 ～	部会 B3	小田原ゼミ	バーチャルに生き、恋をする
		江上ゼミ	アイドルらしくないアイドルたち
		奥村ゼミ	ミュージカル「テニスの王子様」はどのようにファンの心をとらえたのか
		永田ゼミ	日本社会における性的マイノリティの諸問題と権利獲得への取り組み

C 会場: 卒業制作・卒業論文(1002 教室)

13:20～13:30 開会宣言			
13:30 ～	部会 C1	永田ゼミ	弘と娘 4 人
		奥村ゼミ	「日本一のコロック」でも救えない
		松本ゼミ	私たち、地元で結婚しました
14:50～15:00 休憩(10分)			
15:00 ～	部会 C2	永田ゼミ	再出発した先輩
		奥村ゼミ	助けきれない! 猫ばあちゃんの嘆き
		松本ゼミ	大規模災害における全町村避難が地域コミュニティに与える影響と課題
16:20～16:30 休憩(10分)			
16:30 ～	部会 C3	中橋ゼミ	公共マナーにおける価値観の多様性
		庭山ゼミ	食事観察マニュアル
		松本ゼミ	地域メディアを活用した熱海市の活性化について
記念品贈呈式+懇親会(食堂ホール+学生ホール)			
18:00～20:00 記念品贈呈式+懇親会			

シャカリキフェスティバルで報告する代表の選出は、それぞれのゼミナールによってやり方が異なります。学生がそれぞれの卒業論文と卒業制作を発表したうえで投票するケース、希望者が立候補するケース、あるいは教員が指定するケースがあります。代表に選ばれることは、学生にとって名誉なことです。シャカリキの代表という目標があることは、卒業論文と卒業制作に対するモチベーションを高めることにつながります。

シャカリキフェスティバルには、異なるゼミナール間の交流という意味合いもあります。各ゼミナールで縦割りになってしまいがちですが、シャカリキで他のゼミナールの代表の報告を聞くことで、異なるアプローチや視点を知り、広い視野を持つことにつながります。3年生以下は、優れた報告を聞くことで、自分自身の卒業論文と卒業制作に対するヒントを獲得します。

本年度は、各ゼミナール一人ずつシャカリキ実行委員を選出し、教員ではなく、実行委員が司会を担当する形に変更しました。発表の内容を聞きながら、フロアからの質問を促し、時間内に議論をまとめることは、簡単なことではありませんが、実行委員の学生たちは、司会の役割を果たしました。これは、彼らにとっても貴重な機会になったと思われます。発表を聞いた学生のコメントにも、司会を務めた実行委員を讃えるものが見受けられました。

このように、シャカリキフェスティバルは、4年生にとっては優秀な卒業論文と卒業制作の発表の場としてだけでなく、3年次からの2年間のゼミナールの集大成としての側面を持っており、3年生以下にとっては自らの卒業論文と卒業制作に関する学びの場としての機能も果たしています。



シャカリキフェスティバルの様子

2. グローバル化への取組み

ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム

経済学部教授 東郷 賢（経済学部教務委員長）

〈日本初：国際標準の授業を武蔵大学で〉

「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム（学内では通称 PDP と呼ばれています）」が 2015 年 4 月より経済学部でスタートいたしました。

このプログラムは、武蔵大学に入学した学生が、ロンドン大学の入学基準をパスすると、武蔵大学においてロンドン大学のインターナショナル・プログラムを履修し、さらにロンドン大学の試験に合格すると武蔵大学とロンドン大学の両方の学士号を取得できるという画期的なプログラムです。

ロンドン大学のインターナショナル・プログラムは全世界 180 か国以上において 54,000 人を超える人々の学ぶ、国際的なプログラムです。このプログラムを学んだ人々からは、ノーベル賞受賞者、各国政府の大臣・官僚などが出ています。一番有名な卒業生はネルソン・マンデラ氏だと思います。アジアでは、香港やシンガポールでプログラムを履修できますが、韓国、台湾にはなく、日本では武蔵大学が初めて教えることとなります。

インターナショナル・プログラムは、基礎部分のインターナショナル・ファンデーション・プログラム（IFP）と本科であるインターナショナル・プログラム（IP）に分かれており、IFP1 年、IP3 年のプログラムです。

〈充実したプログラムの内容〉

ファカルティ・ディベロップメント（FD）の見地から見て、このプログラムの良い点はロンドン大学が授業の質の管理をするところです。いわゆるダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーは日本の大学と他国の大学のそれぞれの授業の単位を認め合うことで成立しますが、PDP についてはロンドン大学の学士号の授与について武蔵大学の教員の介入する余地は皆無です。

IFP の授業の内容についてはロンドン大学が決め、試験問題を決め、採点も行います。また IP については、ロンドン大学を構成するコレッジのなかでも日本でも有名なロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）が授業内容、試験内容を決め、採点も行います。

全世界で共通の問題、共通の採点基準なので、このプログラムで優秀な成績をとれば、奨学金つきで海外の有名大学院に進学することも夢ではありません。実際、シンガポールで学んでいる学生は毎年 20 名程度が有名大学院に奨学金つきで進学しています。

ロンドン大学は教員の質の管理も行います。実際、2015 年 5 月 21 日、22 日に IFP を教えるための教員のトレーニングが武蔵大学で行われました。これは LSE の担当者が 2 名来校し、2015 年度の IFP 科目の担当者である、ブライアン・マサハート准教授、鈴木唯准教授、根元邦朗准教授と私が 2 人の前で模擬授業を行いました。その後、評価とともに授業改善へのアドバイスをいただきました（写真はその際のものです）。その後、12 月にはロンドン大学から評価ミッションが来て、授業のみならず、学生の学習環境（図書館での教科書の配備状況、コンピューター教室の利用可能性、カリキュラムの内容など）についても審査を行いました。

果たして数ある日本のダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーのプログラムのうちのどれだけが、これほどまでの厳しい FD を行っているのでしょうか。

PDP の成果で言えば、PDP 第 1 期生は応募者 40 名の中から厳選し、21 名が選抜され、4 月から 6 月まで数学、統計学、論理的思考の授業を週 2 回、英語は週 4 回の講義を受け、各科目毎

週 2 時間以上の自習をして猛勉強していました。これは他の一般の学生とは比較にならない勉強量です。やはり、それなりのプログラムを提供すれば、学生は勉強するということだと我々は理解しています。

さらに、6 月 7 日から 8 月 2 日までの 8 週間はフィリピンのセブ島へ、英語現地実習に行きました。これはロンドン大学の IFP の入学基準が、IELTS™ というイギリス留学向け英語テストにおいて、総合評価 (overall) で 5.5 点以上、会話や筆記などの各項目で 5.0 点以上という厳しい条件をクリアするためです。この英語の水準は、英検 2 級から準 1 級の間といわれています。

セブ島の学校はスパルタ教育で有名であり、朝食の前にも夕食の後にも授業があり、毎週土曜日の午前中は模擬試験が行われる、というものです。その結果、セブ島に行った 19 名のうち、13 名が 8 月末までに IELTS の基準をパスしました。その他の学生も帰国後に基準をパスし、9 月からは 19 名全員と既に IELTS の基準をクリアしていた 2 年生 1 名の合計 20 名が IFP の授業を履修しています。

2 月 22 日から 25 日までは春季集中講座を行い、4 月に行われるロンドン大学の試験対策を行いました。ロンドン大学からはそれにあわせて IFP の担当者が来校し、ボランティアでレクチャーをしてくれました。ロンドン大学の協力体制には頭が下がる思いです。

4 月の試験で何人合格するかは未定ですが、既に来年度入学生のうち、多くの学生が「PDP があるので武蔵大学を希望した」と述べていることから、PDP のより一層の改善を行う計画です。



IFP を教えるためのトレーニングの様子